

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員による授業

科 目	看護システム			担当講師名	専任教員・外部講師
学 科 名	学年	クラス	単位数 (時間数)	授業の種類	開 始 時 期
第一看護学科	3	AB	1 (30)	講義	令和8年度後期
授業概要 看護を組織的にかつ安全に展開し発展させるために必要な基礎的知識を施設における看護管理、看護制度と政策、医療安全、国際看護の視点から学ぶ					
授業概要 I 病院における看護組織と役割・機能について理解する II 看護制度と看護行政について理解する III 医療・看護を安全に提供するために必要な理論と方法を理解する IV 海外での看護や国際看護について理解する					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・②・3・4・5・6・7・8・9・⑩・11・12					
回数	時間数		回数	時間数	
1	2	I 看護管理 (1) 1 管理 (マネジメント) とは 2 看護管理とは	11	2	III 医療安全 (5) 5 医療安全とコミュニケーション②
2	2	I 看護管理 (2) 3 組織としての看護サービスのマネジメント	12	2	III 医療安全 (6) 6 医療安全の予防対策①
3	2	I 看護管理 (3) 4 人材のマネジメント 5 ケアを提供する環境のマネジメント 6 物品のマネジメント	13	2	III 医療安全 (7) 6 医療安全の予防対策② KYT訓練
4	2	I 看護管理 (4) 7 財的資源のマネジメント 8 サービスの評価	14	2	III 医療安全 (8) 6 医療安全の予防対策③ 与薬事故を防ぐ対策
5	2	I 看護管理 (5) 9 看護管理の実際 (外部講師)	15	2	V 国際看護 (外部講師)
6	2	II 看護制度と政策	【テキスト】 1 看護管理 医学書院 2 看護実践マネジメント/医療安全、メヂカルフレンド社 3 災害看護/国際看護 医学書院		
7	2	III 医療安全 (1) 1 医療安全の基本的な知識			
8	2	III 医療安全 (2) 2 ヒューマンエラーの理解と対策			
9	2	III 医療安全 (3) 3 組織的な安全対策	成績評価の方法 ☒ 筆記試験 ☐ レポート試験 ☐ 実技試験		
10	2	III 医療安全 (4) 4 医療事故発生時の対応 5 医療安全とコミュニケーション①			

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科 目		災害看護			担当講師	専任教員・外部講師	
学 科 名		学年	クラス	時間数	授業方法	開 始 時 期	
第一看護学科		3	AB	1 (15)	講義	令和8年度後期	
授業概要							
災害が人々の健康や生活に及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学ぶ。							
授業目標							
Ⅰ 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。 Ⅱ 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。 Ⅲ 災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。 Ⅳ トリアージの目的方法について理解できる。 Ⅴ 被災によるストレスの種類や被災者のこころのケアについて理解できる。							
卒業時到達目標との関連							
DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・⑩・⑪・12							
回数	時間数	講義内容			回数	時間数	講義内容
1	2	Ⅰ 災害医療の基礎知識 1. 災害・災害看護の歴史 2. 災害・災害看護の定義 3. 災害の種類と健康障害			6	2	Ⅴ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護（慢性期・復興期・静穏期） ・生活支援と看護の役割 ・病院における防災 ・地域における防災
2	2	Ⅱ 災害医療の特徴 1. 災害サイクルから考える看護活動 2. 災害時医療の考え方（CSCATTT） 3. 災害看護の対象および特徴			7	2	Ⅵ 災害看護の実際（外部講師） 東日本大震災・熊本地震・西日本豪雨災害における看護活動の実際
3	2	Ⅲ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護（急性期） 被災病院における初動体制の立ち上げと多数傷病者の受け入れ ・災害時に必要な基礎技術（トリアージ） ・被災地の病院における初動体制の構築（誘導・搬送）			8	2	Ⅶ 災害とこころのケア（外部講師） 1. 災害時における被災者の心理的反応 2. 被災者の心のケア 3. DPAT活動の実際
4	2	Ⅳ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護①（亜急性期） 避難生活における健康と生活支援 ・被災者の避難所での生活 ・避難所での看護師の役割 ・車中泊および在宅避難を行う被災者への看護			テキスト・参考書 ・系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 第5版. 2024		
5	1	Ⅳ 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護②（亜急性期） ・避難所での日常生活援助の実際					
					成績評価の方法		
					■ 筆記試験 □ レポート試験 □ 実技試験		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員による授業

科目		看護技術の統合		担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	3 年	A・B	1 (30)	演習	令和8年度前期

科目目標

これまで学んだ看護の知識・技術を統合し、看護実践の場で発展させるための基礎的能力を養う。

複数の患者の看護を実施する際の優先順位の決定方法、看護業務の組み立てや多重課題の対処について理解できる。看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの役割が理解できる。患者の状態が変化した際に必要な看護技術が、状況判断を伴いながら統合的に実施できる。

授業概要

臨床現場では複数の患者を複数の看護師が受持つ看護をする。その際には、複数の患者のケアを優先順位を決めながら実施する必要がある。また、チーム内の看護師が協力して適切に看護を行い、多重課題を対処しながら業務遂行することが求められる。複数の患者の看護を実施する際の優先順位の決め方、時間配分の仕方についてペーパーシミュレーションを用いて個人・グループで学ぶ。

状況判断を必要とする看護技術では、ペーパーシミュレーションで用いた複数の事例に対し限られた時間内で優先順位を考えた看護援助の実践を学ぶ。また、患者の体の中で何が起きているか、コミュニケーションや観察技法を用いて情報を集め、知識と結びつけながら的確な臨床判断ができるようになるための基礎的能力を養う。

卒業時到達目標との関連

DP- 1・2・3・4・⑤・6・7・8・9・⑩・11・12

回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 複数患者を受け持つ場合の優先順位の決定方法と看護業務の組み立て方 1) 個人ワーク発表と講義 ・ 複数の患者を受け持つ場合の優先順位の決定方法と看護業務の組み立て	10	2	3) 複数患者への対応 起床後の検温、ケア、報告 シミュレーション① シミュレーション②
2	2	2) ステップ①グループワーク (演習) ・ 複数患者の援助計画立案シミュレーション	11	2	
3	2	* 予定の業務を抽出し、優先順位を考えた業務の組み立て	12	2	4) 臨床判断の演習に向けた準備 情報収集、疾患・治療の事前学習
4	2		13	2	4) 臨床判断の演習に向けた準備 情報収集、疾患・治療の事前学習
5	2	2) ステップ①グループワーク (演習) ステップ①発表・質疑応答・まとめ	14	2	5) 臨床判断を問うシミュレーション シミュレーション③ シミュレーション④
6	2	3) ステップ②グループワーク (演習) ・ 複数患者の援助計画立案シミュレーション ・ ステップ②事例提示 * 予定外の入院や状態が悪化した状況での業務の組み立ての修正	15	2	
7	2	3) ステップ②グループワーク (演習) ステップ②発表・質疑応答・まとめ ・ 「複数の患者を受け持つ看護業務の組み立て」のまとめ	【テキスト・参考書】 新体系看護学全書37 看護実践マネジメント医療安全		
8	2	4) 業務の組み立て、多重課題の対処 ・ 日勤と夜勤の違い ・ 看護記録の書き方 ・ 多重課題への対処まとめ 講義			
9	2	2 状況判断を必要とする看護技術 1) 複数の患者への検温ケアを行うための計画立案 2) グループごとで計画の実施	【成績評価の方法】 演習への参加、課題への取り組み、実践内容、成果物、レポートなどループブリックに沿って評価する。		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員による授業

科目	看護研究の実際			担当講師	専任教員		
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期		
第一看護学科	3 年	A・B	1 (30)	演習	令和8年度前期・後期		
科目目標 これまで学んだ理論や技術を統合して自己の看護実践を振り返ることにより、研究的手法を用いた看護を追究する方法を学ぶ。 1. ケーススタディを通して、実践した看護を科学的な思考で振り返ることができる。 2. 他者の行ったケーススタディを客観的に評価することができる。 3. 他者の行った看護を共有し、学びを得ることができる。 4. ケーススタディをまとめる過程、発表や質疑応答を通して研究的態度を養う。							
授業概要 学生が2年次または3年次に実習で受け持った患者の中から1事例を選定し、ケーススタディとして論文を作成し発表する。論文作成の過程で教員の指導のもとに実践した看護を科学的な思考で振り返り、ケーススタディの研究方法に沿って自己の看護の意味づけを行い、自分の言葉で執筆し発表する。また、発表への参加・評価を通して、他者の論文を客観的に読み込み、質疑応答を通して看護を深める機会とする。ケーススタディへの取り組み、発表を通して研究に対する基礎的な能力と態度を養う。							
卒業時到達目標との関連 DP- 1・②・3・4・5・6・7・8・9・10・11・⑫							
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容	
1	2	ケーススタディー作成OR		10	2	ケーススタディ 発表会	
2	2	ケーススタディ 発表OR		11	2	ケーススタディ 発表会	
3	2	ケーススタディ 発表会		12	2	ケーススタディ 発表会	
4	2	ケーススタディ 発表会		13	2	ケーススタディ 発表会	
5	2	ケーススタディ 発表会		14	2	ケーススタディ 発表会	
6	2	ケーススタディ 発表会		15	2	ケーススタディ 発表会	
7	2	ケーススタディ 発表会		【テキスト・参考書】			
8	2	ケーススタディ 発表会					
9	2	ケーススタディ 発表会		【成績評価の方法】 ケーススタディ論文作成・発表を評価表に基づいて評価する。			